

CASBEE[®] 京都-新築

評価ソフト(標準システム)

バージョン

CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

1) 概要入力

① 建物概要

■ 建物名称	京都競馬場整備工事	
■ 建設地・地域区分	京都市伏見区	6地域
■ 地域・地区	第一種中高層住専、第二種住居、近隣商業、工業、法22条の地域	
■ 竣工年(予定/竣工)	2024年3月	予定
■ 敷地面積	598081.75	m ²
■ 建築面積	22932.35	m ²
■ 延床面積	64,265.15	m ²
■ 建物用途名	観覧場 集会所	
■ 階数	地上7F	
■ 構造	S造	
■ 平均居住人員	27,500	人(想定値)
■ 年間使用時間	1,070	時間/年(想定値)

② 評価の実施

■ 評価の実施	2021年2月1日	実施設計段階
■ 作成者	小林 陽一	
■ 確認日	2018年4月1日	
■ 確認者		
■ LCCO2の計算	標準計算	→LCCO2算定条件シート(標準計算)を入力

2) 個別用途入力

① 用途別延床面積

事務所	0.00	m ²	事務所		m ²
			官公庁		m ²
学校	0.00	m ²	幼稚園・保育園		m ²
			小・中学校		m ²
			小・中学校(北海道以外)		m ²
			高校		m ²
			大学・専門学校		m ²
物販店	0.00	m ²	デパート・スーパー		m ²
			その他物販		m ²
飲食店		m ²			
集会所	64,265.15	m ²	劇場・ホール		m ²
			展示施設		m ²
			スポーツ施設	64265.15	m ²
工場		m ²	うち省エネ計画対象面積		m ²
病院		m ²			
ホテル		m ²			
非住宅 小計	64,265.15	m ²			
集合住宅	0.00	m ²	専用部		m ²
			共用部		m ²

② 住居・宿泊部分の比率

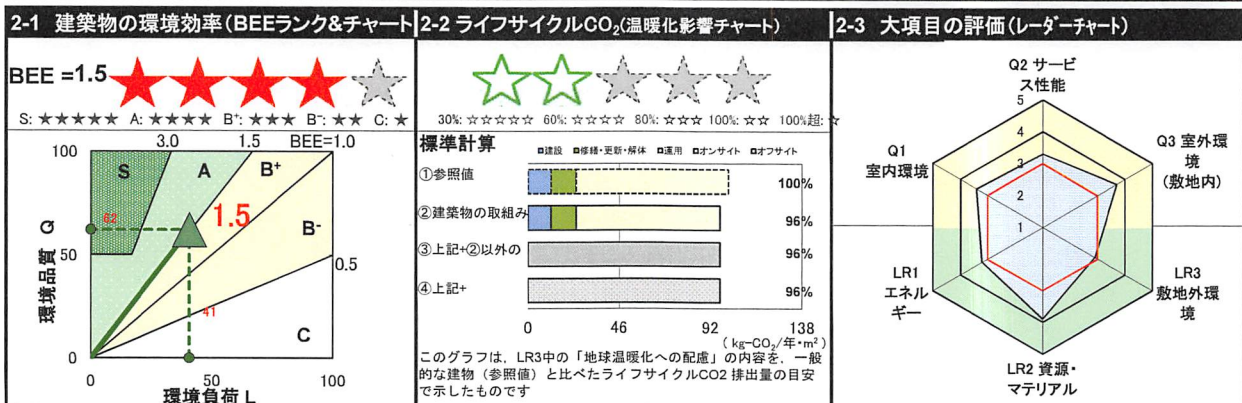
■ 病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率	
■ ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率	
■ 集合住宅の延床面積のうち、住戸部分の床面積の比率	0.00

CASBEE® 京都-新築

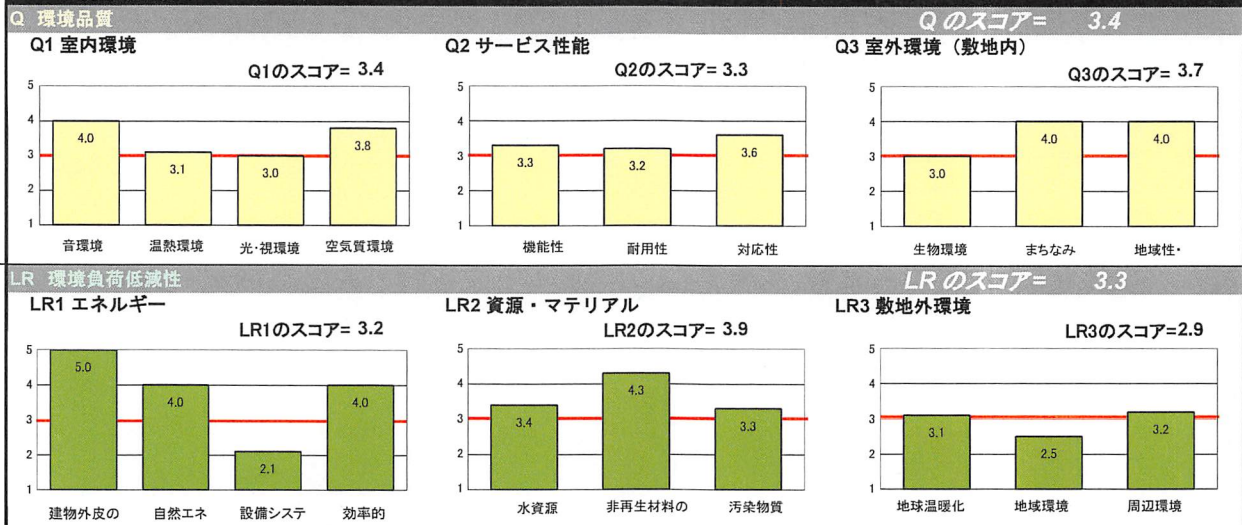
標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE 京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都競馬場整備工事	階数	地上7F
建設地	京都市伏見区	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第二種住居、近隣商業、工業、法22条の地域	平均居住人員	27,500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,070 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2021年2月1日
敷地面積	598,081.75 m ²	作成者	小林 陽一
建築面積	22,932.35 m ²	確認日	2018年4月1日
延床面積	64,265.15 m ²	確認者	



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他	
建物自体がより永く良い状態で使い続けられるために必要な機能に配慮し、建築物の環境効率の良い計画としている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
室内騒音レベル40 dBA以下を目標とし、吸音材の採用等、室内の音環境に配慮している。 外皮に断熱材を施し、外部からの熱負荷に配慮している。	ゴミ集積所の確保や、外部清掃を安全に行うためのゴンドラを設置する等、建築物の維持管理に配慮した取り組みを行っている。	緑地に遊歩道を設け、ベンチやテーブルを設置することで、施設利用者が緑に親しむことができるようにしている。 敷地内の記念樹を保存樹とし、移植する等、生物資源の
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮に断熱効果のある施工をすることで、外部からの熱負荷の軽減をしている。 LED照明設備を導入し、一次エネルギーの低減化を図っている。	水源の保護のため、自動水栓と節水型便器を採用している。 躯体及び躯体材料以外にリサイクル材を使用している。 再利用できるユニット部材として、分別が容易な部材・OAフロアを採用している。	各階にゴミ集積所を設け、集積所側にEVを設置する等、ゴミの回収搬出を容易にしている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1 建物概要		京都競馬場整備工事		BEE	1.5	A	★★★★★
建物名称		京都競馬場整備工事		使用CASBEE評価マニュアル/CASBEE-京都-建築(新築)2018年版			
延床面積		64,265.15 m ²		使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2018(v.1.0)			
用途		観覧場 集会所					

2 重点項目への取組度	
キーワード	取組度
1 大切に使う	   
2 とともに住まう	  
3 自然からつくる	  

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア																									
1 大切に使う																									
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">■長寿命化</td> <td>合計点</td> <td>34 /41</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ◇メンテナンスの容易性 Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性 Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性 Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性 Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性 Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性 (注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される) </td> <td>スコア</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">◇物理的長寿命 Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数</td> <td>スコア</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ◇社会的長寿命 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ </td> <td>スコア</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> (注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される) 構造部材を痛めることなく修繕できる設計としている。 </td> <td>スコア</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ◇壁長さ比率を低くすることで、空間・設備のプランニングの自由度が極めて高い設計としている。 </td> <td>スコア</td> <td>5</td> </tr> </table>		■長寿命化		合計点	34 /41	◇メンテナンスの容易性 Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性 Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性 Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性 Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性 Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性 (注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)		スコア	3	◇物理的長寿命 Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数		スコア	3	◇社会的長寿命 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ		スコア	3	(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される) 構造部材を痛めることなく修繕できる設計としている。		スコア	5	◇壁長さ比率を低くすることで、空間・設備のプランニングの自由度が極めて高い設計としている。		スコア	5
■長寿命化		合計点	34 /41																						
◇メンテナンスの容易性 Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性 Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性 Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性 Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性 Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性 (注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)		スコア	3																						
◇物理的長寿命 Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数		スコア	3																						
◇社会的長寿命 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ		スコア	3																						
(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される) 構造部材を痛めることなく修繕できる設計としている。		スコア	5																						
◇壁長さ比率を低くすることで、空間・設備のプランニングの自由度が極めて高い設計としている。		スコア	5																						
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">■省資源</td> <td>合計点</td> <td>19 /20</td> </tr> <tr> <td>LR2/ 2.1 材料使用量の削減</td> <td>スコア</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</td> <td>スコア</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</td> <td>スコア</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組</td> <td>スコア</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 躯体及び躯体材料以外にリサイクル材を使用している。 部材の再利用可能性向上への取組として、OAFフロア・LGSを使用している。 </td> <td>スコア</td> <td>5</td> </tr> </table>		■省資源		合計点	19 /20	LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア	4		LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア	5		LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア	5		LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア	5		躯体及び躯体材料以外にリサイクル材を使用している。 部材の再利用可能性向上への取組として、OAFフロア・LGSを使用している。		スコア	5
■省資源		合計点	19 /20																						
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア	4																							
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア	5																							
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア	5																							
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア	5																							
躯体及び躯体材料以外にリサイクル材を使用している。 部材の再利用可能性向上への取組として、OAFフロア・LGSを使用している。		スコア	5																						
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">◆独自加算項目</td> <td>合計点</td> <td>1 /1</td> </tr> <tr> <td>LR2/ 2.1 材料使用量の削減</td> <td>主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。</td> <td>スコア</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</td> <td>主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。</td> <td>スコア</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</td> <td>「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。</td> <td>スコア</td> <td>0</td> </tr> </table>		◆独自加算項目		合計点	1 /1	LR2/ 2.1 材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。	スコア	対象外	LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	スコア	対象外	LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	スコア	0								
◆独自加算項目		合計点	1 /1																						
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。	スコア	対象外																						
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	スコア	対象外																						
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	スコア	0																						

2 とともに住まう																					
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">■自然とともに住まう</td> <td>合計点</td> <td>6 /10</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ◇自然を感じられる計画 Q2/ 1.2.1 広さ感・景観 Q3/ 1 生物環境の保全と創出 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 緑地帯に遊歩道やベンチを設け、利用者が自然に親しめる環境を確保している。 記念樹の移植をする等、生物環境の保全と創出を考えた緑地づくりを行っている。 </td> <td>スコア</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ◇地域環境やコミュニティへの配慮 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策 </td> <td>スコア</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 大庭やピロティを設け、雨宿りや待ち合わせに利用できるようにしている。夏には日陰を提供している。 </td> <td>スコア</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 大庭やピロティを設け、雨宿りや待ち合わせに利用できるようにしている。夏には日陰を提供している。 </td> <td>スコア</td> <td>3</td> </tr> </table>		■自然とともに住まう		合計点	6 /10	◇自然を感じられる計画 Q2/ 1.2.1 広さ感・景観 Q3/ 1 生物環境の保全と創出 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 緑地帯に遊歩道やベンチを設け、利用者が自然に親しめる環境を確保している。 記念樹の移植をする等、生物環境の保全と創出を考えた緑地づくりを行っている。		スコア	対象外	◇地域環境やコミュニティへの配慮 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		スコア	5	大庭やピロティを設け、雨宿りや待ち合わせに利用できるようにしている。夏には日陰を提供している。		スコア	2	大庭やピロティを設け、雨宿りや待ち合わせに利用できるようにしている。夏には日陰を提供している。		スコア	3
■自然とともに住まう		合計点	6 /10																		
◇自然を感じられる計画 Q2/ 1.2.1 広さ感・景観 Q3/ 1 生物環境の保全と創出 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 緑地帯に遊歩道やベンチを設け、利用者が自然に親しめる環境を確保している。 記念樹の移植をする等、生物環境の保全と創出を考えた緑地づくりを行っている。		スコア	対象外																		
◇地域環境やコミュニティへの配慮 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		スコア	5																		
大庭やピロティを設け、雨宿りや待ち合わせに利用できるようにしている。夏には日陰を提供している。		スコア	2																		
大庭やピロティを設け、雨宿りや待ち合わせに利用できるようにしている。夏には日陰を提供している。		スコア	3																		
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">■歴史とともに住まう</td> <td>合計点</td> <td>8 /10</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ◇歴史性への配慮 Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 バドック側大庭に京都産材を使用している。 </td> <td>スコア</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ◇バドック側大庭に京都産材を使用している。 </td> <td>スコア</td> <td>5</td> </tr> </table>		■歴史とともに住まう		合計点	8 /10	◇歴史性への配慮 Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	3	◇バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	5								
■歴史とともに住まう		合計点	8 /10																		
◇歴史性への配慮 Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	3																		
◇バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	5																		
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">◆独自加算項目</td> <td>合計点</td> <td>0 /2</td> </tr> <tr> <td>Q2/ 1.2.1 広さ感・景観</td> <td>京都重点項目による加算により、レベル5を超える。</td> <td>スコア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策</td> <td>格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。</td> <td>スコア</td> <td></td> </tr> </table>		◆独自加算項目		合計点	0 /2	Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	京都重点項目による加算により、レベル5を超える。	スコア		LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。	スコア									
◆独自加算項目		合計点	0 /2																		
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	京都重点項目による加算により、レベル5を超える。	スコア																			
LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。	スコア																			

3 自然からつくる																									
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">■自然材料の利用</td> <td>合計点</td> <td>23 /35</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。 </td> <td>スコア</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。 </td> <td>スコア</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。 </td> <td>スコア</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。 </td> <td>スコア</td> <td>3</td> </tr> </table>		■自然材料の利用		合計点	23 /35	Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	11	Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	3	Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	5	Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	3				
■自然材料の利用		合計点	23 /35																						
Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	11																						
Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	3																						
Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	5																						
Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 バドック側大庭に京都産材を使用している。		スコア	3																						
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">■自然環境の利用</td> <td>合計点</td> <td>10 /15</td> </tr> <tr> <td>Q1/ 3.1.1 屋光率</td> <td>スコア</td> <td>対象外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q1/ 3.1.3 屋光利用設備</td> <td>スコア</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q1/ 3.2.1 屋光制御</td> <td>スコア</td> <td>対象外</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q1/ 4.2.2 自然換気性能</td> <td>スコア</td> <td>対象外</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> トップライトを採用している。 </td> <td>スコア</td> <td>対象外</td> </tr> </table>		■自然環境の利用		合計点	10 /15	Q1/ 3.1.1 屋光率	スコア	対象外		Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	スコア	3		Q1/ 3.2.1 屋光制御	スコア	対象外		Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア	対象外		トップライトを採用している。		スコア	対象外
■自然環境の利用		合計点	10 /15																						
Q1/ 3.1.1 屋光率	スコア	対象外																							
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	スコア	3																							
Q1/ 3.2.1 屋光制御	スコア	対象外																							
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア	対象外																							
トップライトを採用している。		スコア	対象外																						
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">◆独自加算項目</td> <td>合計点</td> <td>2 /5</td> </tr> <tr> <td>LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材</td> <td>「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。</td> <td>スコア</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q1/ 3.1.3 屋光利用設備</td> <td>デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。</td> <td>スコア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Q1/ 3.2.1 屋光制御</td> <td>デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。</td> <td>スコア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>LR1/ 3 設備システムの効率化</td> <td>評価する取組のうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/m²・年以上となる場合。</td> <td>スコア</td> <td>0</td> </tr> </table>		◆独自加算項目		合計点	2 /5	LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	スコア	0	Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。	スコア		Q1/ 3.2.1 屋光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。	スコア		LR1/ 3 設備システムの効率化	評価する取組のうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。	スコア	0				
◆独自加算項目		合計点	2 /5																						
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	スコア	0																						
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。	スコア																							
Q1/ 3.2.1 屋光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。	スコア																							
LR1/ 3 設備システムの効率化	評価する取組のうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。	スコア	0																						

4 低炭素景観の創出に関する評価				
☐ Q1/3.1.3 屋光利用設備 ☐ Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	☐ Q1/3.2.1 屋光制御 ☐ LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	☒ Q3/1 生物環境の保全と創出 ☒ LR3/3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	低炭素景観 取組数	1/6項目

5 ライフサイクルCO ₂ とCO ₂ 削減率				
ライフサイクルCO ₂ (ライフサイクルCO ₂ 参照値) CO ₂ 削減率	96.93 101.15 -4.22	kg-CO ₂ /年m ² kg-CO ₂ /年m ² kg-CO ₂ /年m ²	ライフサイクル CO ₂ 削減率	+4.2%

6 ウッドマイレージCO ₂ とCO ₂ 削減率			
ウッドマイレージCO ₂ CO ₂ 削減効果	kg-CO ₂ kg-CO ₂	ウッドマイレージ CO ₂ 削減率	0%

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
京都競馬場整備工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		評価点	重み係数				評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質											3.4
Q1 室内環境								0.40	-	-	3.4
1 音環境							4.0	0.15	-	-	4.0
1.1 室内騒音レベル							5.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音							3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能							3.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能							-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	-	3.0	-	
1.3 吸音							4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境							3.1	0.35	-	-	3.1
2.1 室温制御							3.2	0.50	-	-	
1 室温							3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能							4.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性							3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御							3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式							3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境							3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用							3.0	0.38	-	-	
1 昼光率							-	-	3.0	-	
2 方位別開口							-	-	-	-	
3 昼光利用設備							3.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策							-	-	-	-	
1 昼光制御							-	-	3.0	-	
3.3 照度							-	-	3.0	-	
3.4 照明制御							3.0	0.63	3.0	-	
4 空気環境							3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策							4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質							4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気							3.5	0.30	-	-	
1 換気量							4.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能							-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮							3.0	0.50	3.0	-	
4.3 運用管理							4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視							5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御							3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能							-	0.30	-	-	3.3
1 機能性							3.3	0.40	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性							-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応							-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画							3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性							3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)							-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース							-	-	-	-	
3 内装計画							3.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理							4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計							3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保							5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性							3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振							3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)							3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能							3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数							3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数							3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							4.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔							3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性				2.電気・ガス二種類の熱源を使用 / 3.防振吊支持を使	3.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり					5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり				-	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率=0.0968	5.0	1.00	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性					3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			屋上に予備スペースを確保している	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	街並み修景地区(届出有)+加点	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮, 快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)	I 2)、II 1)、I+II 1)、III 1)、IV 1)、 6pt	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.69	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	トップライトを採用している	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.97	2.1	0.50	-	-	2.1
4 効率的運用					4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価					4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			中央監視装置によりエネルギー管理を行う	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			月別エネルギーの使用量を管理者に報告する	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				自動水栓に加え、自動洗浄やフラッシュバルブなどの節水型便器を使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					4.3	0.60	-	-	4.3
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	プレストレストコンクリート、高力ボルト、鉄骨SN490Bの使用	4.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			高炉セメント	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	フローリング・床材・OAフロア、カーペット・絨毯、畳・襖・障子	5.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	再利用できるユニット部材(OAフロア)を使用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用			接着材で使用	4.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮				LCCO2排出率96%	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮					2.5	0.33	-	-	2.5
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			I 1)、II 1)2)3) 4pt	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる